

# カメラ おおいた市推しショット!!

今回は、10月23日に田ノ浦ビーチで行われた「ビーチで体験する、スポーツのノーマライゼーション」のイベントの様子をご紹介します。

主催の(一社)日本デフビーチバレーボール協会では、田ノ浦ビーチでの体験を通じ、障がいの有無を超えた地域社会のコミュニケーション・スポーツ拠点づくりを行っています。

当日は、多くのコミュニティが参加し、車いすレーサー・ビーチバレー・シットイングビーチバレー・模擬義足などの体験を通じて交流を図りました。参加者からは「障がいの有無種別を超えて、楽しい時間を過ごせた」などの声が寄せられました。😊

市でも、ノーマライゼーションの推進を目的として、さまざまな事業を行っています。詳しくは障害福祉課(☎ 537-5785)へ。



©(一社)日本デフビーチバレーボール協会

市公式 SNS では、旬な情報を発信中!



市公式 SNS はこちら▲

わが家のおかずにも!

## おおいた香り野菜レシピ



### パセリのシフォンケーキ



パセリ

#### 【産地情報】

戸次・高田地区を中心に1.3haの面積で年間39t生産されています\*。  
花束のように束ねて袋掛けをされたパセリは20束ずつ箱詰めされて九州・山口方面に出荷されています。  
※3年度実績

#### ●材料

- パセリ 50g
- 卵 L 5個
- 砂糖 100g
- 強力粉 130g
- ベーキングパウダー 大きじ1/2
- 水 70cc
- サラダ油 80cc
- レモン汁 小さじ2

#### ●作り方

- ① パセリを洗い、水切りして葉の部分だけをちぎって水70ccとミキサーにかける(茎は不使用)。
- ② 強力粉にベーキングパウダーを入れて混ぜる。
- ③ 卵を卵黄、卵白に分ける。
- ④ 卵黄に砂糖を半分(50g)入れ、泡立て器で白っぽくなるまで混ぜ、サラダ油→①→②の順に混ぜながら加えていく。
- ⑤ 卵白を泡立て器で泡立て、残りの砂糖を入れて

しっかり角が立つまで泡立ててメレンゲを作る。

- ⑥ メレンゲの3分の1を④に入れて混ぜる。馴染んだら残りのメレンゲも加え、メレンゲの固まりが消えるまでゴムヘラでしっかりと混ぜる。
- ⑦ ⑥をシフォンケーキの型に流し入れ、170℃のオーブンで50分焼いて出来上がり。

レシピ提供者: JAおおいた中部事業部パセリ部会



大分市公式動画チャンネルでは、その他のレシピも公開中!▶



農政課 ☎537-7025

## 差別をなくすのは誰? 私たちです

2022大分市人権フォトコンテスト入選作品  
「家族のきずな」



### どんな法律? なぜできたの?

この法律は、「現在もなお部落差別が存在する」との認識を示し、「基本的人権を保障する憲法の理念にのっとり、部落差別は許されない。解消することが重要な課題」として、部落差別のない社会を実現することを目的としています。

この法律が施行された背景には、現在もなお、特定の地域出身であることやその地域に住んでいることを理由として、結婚や就職の際の身元調査、インターネット上での差別書き込みなどの差別事象が発生していることがあります。

### 部落差別の解消に向けて

部落差別解消推進法の目的を達成するためには、私たち一人ひとりが、この法律について理解することが大切です。その上で、差別の現実を学び、「なぜこの法律ができたのか」、「差別を解消するにはどうすればよいか」を差別を受けている人の立場に立って考え、行動することが大切です。

部落差別の解消は、私たち一人ひとりの課題なのです。

「ご存じですか?」

# 部落差別解消推進法

部落差別のない社会を実現するために、2016年(平成28年)12月16日、「部落差別の解消の推進に関する法律」(部落差別解消推進法)が施行されました。なぜこの法律ができたのか、そして誰もが幸せに暮らすために大切なことは何なのか、考えてみましょう。

問 人権・同和対策課 ☎537-75618

## 人権・同和教育シリーズ 528

### 人の生き方を考える ぬくもりを感じて



先日、生まれてばかりの子どもを連れて、妻のサチ(仮名)と実家に帰省しました。幸せそうに孫を抱っこする両親の姿を見てみると、結婚したときの頃から思い出したのです。

両親には、交際している頃からサチを紹介し、四人で食事やドライブをするなど親交を重ね、いつしか両親はサチを娘のようにかわいがっていました。

二人で結婚を決めたときのことです。サチは「わたしの生まれのことに ついて、あなたのご両親にもきちんと話したい」と言ったのでした。わたしは「今さら言わなくてもいいんじゃないの?大丈夫だよ」と伝えましたが、サチの決意は変わりませんでした。

数日後、二人で実家に行き、いつものように四人で食事をしていたときに話がありました。サチは「お父さんとお母さんです。生まれ育った場所や家族すべてが大好きです。これまで、黙っていてもごめんなさい」と言ったのです。突然の話に「そうだったんだね」とつぶ

やく父を見て、わたしは「だから、言わなくても」という思いになりました。

しばらくの沈黙の後、父はサチに「随分勇気がいったんじゃないの?不安だっただろう」と声を掛け、「でも、そんなことでわたしはあなたを差別しないよ。だって、あなたがどんな人柄か分かっているから」と続けました。母も「そうよ、あなたは何も悪くない。あなたは、あなたでしょ。故郷や家族を誇りに思えるあなたは、やっぱりすてきな子ね」と語りかけたのです。その後、両親はわたしが結婚を決めたことを聞いて喜び、サチは涙を流したのでした。

そのとき、「言わなくても」というわたしの考え方が、故郷や家族を大切にしたい、そしてそのことを伝えたいというサチの思いを否定していたのではないかと気付いたのでした。

今、わたしの前で両親に抱っこされている子どもを見つめながら、あ のとき感じた両親のぬくもりを引き継いでいかなければと思いました。

本来、出身地などは隠す必要のないことなのですが、偏見や差別により、隠さざるを得ない人がいます。誰もが自分らしく生活していくためには、部落差別をはじめあらゆる差別の解消が必要なのです。